

各節に暗色紋を見るに至る。老熟すれば軀長一〇耗内外に達し頭部及前背板並腎板黒色、胸部暗黄色を呈し各節の多數の黒褐色刺然し之より細毛を生ず。胸脚は黒褐色を呈す。

蛹 軀長七・八耗にして全軀黄色を呈し羽化前に至れば稍赤褐色を帯ぶ。

經過習性

年二回發生なるも發生不整齊にして六月下旬頃より九月上旬に亘り常に成蟲を認められる、主に卵態で越冬し幼蟲は五月中旬より發生し各種植物の葉及嫩芽時に害をも喰害し、老熟すれば土中に入り土窟を營い蛹化し六月中旬頃より漸次羽化出現す。成蟲も幼蟲同様各種植物を喰害し七月上旬頃より漸次産卵す。卵は土面に産附されるも土を着け發見し難い。産卵期間は一五日内外に亘り五十一〇回に亘り分

産し一雌の産卵數は九一―一八二粒平均一五〇粒内外である。卵は二週内外にて孵化す。即ち六月中旬頃より羽化したる成蟲は七月に至り漸次産卵し、之の卵より孵化したる幼蟲は七月中下旬より認められ八月中旬頃蛹化、次で羽化し此の成蟲は同月下旬より九月上旬に亘り産卵する。薄荷に害多きは第一回幼蟲即ち五月中下旬にして其後に於ては白菜大豆等に害を認められる。

被害植物、薄荷、大豆、白菜、甘藷、陸稻、稗、其他。

防除法

- 一、幼蟲に對してはデリス劑の撒布を行ふ。
- 二、毒劑を撒布し喰害防止をなす、但し大豆等豆科のものは藥害あるを以て撒布せざる事
- 三、附近雜草に發生のもの漸次移轉喰害するを以て早期處分をすること。

天敵

幼蟲に寄生する綠蠟の一種あり。

粟島産昆蟲目錄

井上 眞一
馬場 金太郎

數少き日本海の島嶼中、新潟縣に屬するものに、佐渡、粟島の二つがある。その中佐渡の昆蟲相は、最近頗に明かになりつゝある今日、粟島の昆蟲に關する報告は殆んど皆無と稱して差支へなき有様である。かゝる意を掬んで、今著者等の小目錄を公表する事も無意味ではあるまい。

著者の一人井上は本年八月十一日粟島を訪れて若干の昆蟲を採集した。馬場は之を整理し、之に先に

Myvalosis gotama Moore ヒメシヤノメ(井上)
Pyraoncis carlini japonica Stiedl ヒメアカメテハ(井上)
Diapera japonica Feltner コシメテマ(井上)
Chrysophanus pilaeus Linnaeus スキマシメ(木村)(井上)

Mizera rubra Feltner キイトシシメ(井上)
Painilo tellys Mégnin ダイミヤウセセリ(井上)
Anarta gemma Feltner キハダカノコ(井上)
Stigmaphysa rhodophila Walker モンクローベニコケガ(木村)
Abraxas piperida Bridg. エフメダラエグシヤク(井上)
Marycevia quadrinotata Bremer et Grey ヨツボシノメイガ(井上)
Glanvillea japonica Madschlam ホシウスバカゲロフ(井上)
Meloida violacea Motschulsky ツマジロカメムシ(井上)
Copra annulata Selys モノウシトンボ(木村)

簡単な膠加用マシン油乳劑の製法に就て

川 口 武 彦

現在介殼蟲驅除方策として青酸瓦斯燻蒸法行はれ最高の効果を得ることが出来得るが、之は其の被害激甚なる場合、又は他所から新介殼蟲の侵入により局部的に發生し他圃の蔓延防止として必ず實行すべき方法であつて經濟的問題は除外すべきであるが、其の他の場合に於いては經濟上其の他の關係で實行困難なる場合が多いのである。

かゝる場合、液剤による他ないのであつて液剤の効果は青酸瓦斯燻蒸法の效果に及ばざれども合理的な使用に依つて充分の効果が得られ經濟的に驅除なら得るのである。